

組織の“考える力”を強化する

— 厳しい環境を乗り越える知恵の創出 —

円安、物価高、人手不足等々、企業を取り巻く環境はますます厳しくなっています。この危機を乗り越えていくためには、**知恵を創出するための「考える力の強化」が不可欠**です。

昨今、若手社員の「考える力（正解のない問題を解決するための）」が弱くなっていると言われています。その理由の一つとして、生まれながらスマホ等の機器に触れることに慣れていることが挙げられています。分からないことはすぐに調べれば“正解”を得ることができます。そのことで深く考える習慣がなくなってしまったということです。

しかし、これは若手だけのことでしょうか？

例えば、通勤電車の車内を見てください。ほとんどの人がスマホに釘付けになっていないでしょうか。中には電車を降りても見続けている人も多くいます。

脳科学の専門家によると、人は多くの情報に触れ続けると、脳疲労を起こしてしまうそうです。そこで、無意識のうちに疲労を軽減するため、反射的に情報を処理するようになります。これは、“深く考えない”ことに繋がります。このように、**「考える力の退化」は、若手だけの問題ではありません**。これでは、厳しい経営環境を乗り越える知恵を創出することは、難しいでしょう。まさに、「考える力の強化」は重要な経営課題と言えます。

しかし、ともすると「考える力」とは個人の資質や能力と考えられがちです。その結果、**優れたごく一部の（もしくはリーダー）だけに依存してしまうことになりかねません**。

そもそも、**良い知恵（アイデア）は、多くの情報収集によって、多くの情報を組み合わせ、その中から新たな組み合わせ（アイデア）が生み出されるものです**。

そのポイントは「多く」ということです。つまり、多くの方がいた方が良いアイデアが出やすくなるのは当然のことです。組織全体で考えることが重要なのです。

「考える」には、その方法があります。その方法を身につけることが重要です。さらに、アイデアが生み出されやすい“組織風土”も重要です。

例えば、「グループシンク」という言葉がありますが、これは、まさに組織風土が大きく影響しています。「グループシンク」とは、一つの意見にグループ全体が左右されてしまい、結果として陳腐なアイデアにまとまってしまうことです。

つまり、「組織の考える力を強化する」ためには、「考える方法の習得」と「組織風土の改革」がまさに車の両輪として機能しなければならないのです。

弊社の「組織の考える力を強化する研修」は、この両輪を機能させるためのものです。基本的には部門ごとで受講していただきます。また、部門の経営課題を題材として現場に密着した内容にします。

そのためにも、事前に詳しいヒヤリングをさせていただき、オリジナルなカリキュラムを提案いたします。

興味・関心のある方は、まず下記から是非ご相談下さい。ご相談・仮提案は無料でさせていただきます。

> お問い合わせはこちら

